

随筆



久米島自転車ツーリングの旅
 ～村田先生！ハクチョウの浮き輪を持って遊びに行きます～（後編）

曙クリニック
 玉井 修

久米島ツーリング

久米島病院をあとにして、私は島の東海岸に向かいました。久米島はほとんど平坦な道はなく、アップダウンの激しいコースで、自転車ではかなりの脚力を要します。久米島病院のある島の西側から山を一つ越えて東海岸側に出ました。まずはイーフビーチ近くにある今夜の宿泊所である民宿黒潮に寄って大きな荷物を下ろします。連休前にやっととれた民宿は昔の沖縄の住宅そのもので、あまりの素朴さに子供の頃によく行った祖父の家を思い出しました。

車の音もしない、素朴な民家の一室で、鳥の鳴き声ばかりが聞こえてきます。民宿黒潮からイーフビーチはすぐ近くで、歩いて行けます。日本の渚100選に選ばれたイーフビーチはきめの細かい真っ白な砂浜が2キロも続く美しい砂浜で、本島の混雑したビーチとは全く違った穏やかで、静かで、美しい渚でした。砂浜を歩くと、キュッキュッと砂の音が聞こえました。イーフビーチを後にして今度は自転車を北に走らせ奥武島を目指します。ほとんど車の通らない快適な奥武海中道路を渡ると直ぐに畳石の海岸が見えてきます。奥武島にある畳石は、その造形に自然の不思議を感じます。なぜこのような不思議な造形になったのでしょうか？素晴らしい快晴の天気と青い海、そして畳石のコントラストはあまりにも鮮やかで、久米島ならではの時間を満喫した瞬間でした。夕方民宿黒潮に帰り、一風呂浴びると、午後6時には小学校からのアナウンスが聞こえます。良い子の皆さんは



久米島の地図



奥武島の畳石



静かなイーフビーチ



民宿黒潮

お家に帰って家庭学習の時間ですとアナウンスされます。

村田先生と夕食

村田先生とは夕方7時にイーフビーチ近くのリゾートホテル久米アイランドで待ち合わせし、早速村田先生の囲碁仲間が経営するという伊勢エビの店『みやぎ』に行きました。普通の民家のような店で、伊勢エビ定食を注文しました。まず出されるのは近海物の刺身でお皿一杯の大盛りです。これだけでも充分なのに、伊勢エビのボイル、500グラムはあるとのこと。料理を運ぶのは店のおばあさんで、私たちに饗された伊勢エビは脱皮する直前の非常に美味しい時期のものであるとの解説を頂きました。とても気さくなおばあさんで、僕らの隣で宴会をしていたお客さん達の会計が分からなくなったとの相談を受けました。ビールで良い気分になっている私と店のおばあさんで見ず知らずの人たちの会計計算を行いました。4人で4万円を超える計算になったけど当たっていたかな？ 私たちは2人で巨大な伊勢エビをたらふく食べ、最後はエビのだしの良く効いたみそ汁を頂きました。会計は2人で8,000円、これまた店のおばあさんと私とで計算しました。

民宿の夜

伊勢エビをたらふく食べた後、村田先生に民宿黒潮まで送って頂きました。連休の期間だと言うのにおつきあい頂き村田先生には感謝しております。民宿の夜は、蚊の襲来と、隣の部屋の兄ちゃんが夜中じゅうテレビを見てゲラゲラ笑っているためほとんど眠れず、頭がぼーっとしながら朝を迎えました。素泊まり3,000円の民宿なので多くは期待できません。

帰りのフェリー

5月4日も快晴です。帰りは朝8時半のフェリーなので、朝の7時前には民宿を引き払い、朝食も摂らずに自転車で30分ほどかかる西海岸側に行かなくてはなりません。前日の伊勢エビがしっかりお腹に残っていたので、問題なく自転車で出発。朝の涼しい空気の中、やはりアップダウンの激しい久米島の道を走ります。兼城港に着いたのは午前7時半頃でした。まずは自転車を預けて、兼城港ターミナルで簡単な朝食をとります。小さな土産品店もありますが、兼城港ターミナルは人もまばらでひっそりとしています。出航30分前にフェリーに乗船し4時間かけて泊港に帰ってきました。泊港には那覇ハーリーの出店が多く並び、那覇の喧噪をまた思い出させてくれました。フォークリフトの行き交う港を自転車で走りながら、また腕時計を気にする生活に引き戻された私でした。



伊勢エビの『みやぎ』のおばあさん



帰りの兼城港はひっそりしていました

随筆



沖縄尚学高校、全国高校 野球選抜大会優勝の陰で

国立病院機構沖縄病院 呼吸器外科
川畑 勉

はじめに

春の選抜と言えば多くの方が高校野球を連想すると思いますが、同じ高校生のスポーツであるウエイトリフティング、ハンドボール、バレーボール、弓道などにも春の全国選抜大会があり、ほぼ同時期に開催されていることをご存知でしょうか。このコーナーをお借りして今や沖縄県のお家芸ともいえるウエイトリフティング（重量挙げ）を皆様に紹介したいと思います。

豊見城高校の快挙

沖縄尚学高校が今年の春の選抜大会への参加で甲子園に向け出発する頃、全国高校選抜ウエイトリフティング競技大会で豊見城高校が男女合わせて5階級で優勝し、優勝者5人はこの8月に行われる日本、中国、韓国三ヵ国対抗戦の日本代表に選ばれた。1つの高校から5人の日本代表が選出されるのは個人競技では例がないほどの『快挙』なのだ。にもかかわらず、那覇空港への出迎えは我々ウエイトリフティング協会の関係者と選手の家族のみで、甲子園で戦う前からマスコミに取り上げられ華やかに出発して行く沖尚ナインと比べるとそれはとてもさびしいものだった。

運命の日

4月4日は北京オリンピック代表選考会を兼ねたウエイトリフティング全日本選手権が開かれた。くしくもその日は甲子園で、沖縄尚学と聖望学園との間で紫紺の大旗をかけた決勝が行われた日だ。午後1時30分、沖縄尚学が優勝を決めるより一足先に本県の大城みさき選手が女子48Kg級で優勝した。ウエイトリフティン

グはスナッチとジャークの2種目の合計で競うが、スナッチにおいてはすでに北京オリンピックの日本代表に内定していた三宅選手の記録をも上回る日本新記録を樹立した。大城選手の樹立したスナッチ83Kgという数字はシドニー大会、アテネ大会の金メダリストと同記録であり、その偉大さがわかって。その記録が評価され、晴れて北京オリンピック日本代表3人のうちの一人に選ばれた。沖縄県ウエイトリフティング協会からは5人目のオリンピックの誕生だ。私もシドニーオリンピックに引き続き支援コーチとして北京へ帯同することとなった。

沖縄の生んだ5人のオリンピック

ウエイトリフティングは1896年の第1回大会からオリンピック種目である数少ない競技の1つである。海外でのその人気は大変高く、オリンピックの入場券は発売と同時に完売の状態である。チケット1枚の値段も高く、野球のほぼ10倍であった（シドニー大会）。

日本を代表するオリンピック選手はオリンピックと呼ばれる。国を代表するオリンピックは海外では、世界選手権の代表とは比較にならないほどの敬意が払われる。沖縄県からは1984年（ロサンゼルス大会）、1988年（ソウル大会）に平良朝治選手、1992年（バルセロナ大会）に伊礼 淳選手、1996年（アトランタ大会）、2000年（シドニー大会）に吉本久也選手、2000年（シドニー大会）に仲嘉真理選手がオリンピックとして出場を果たし、特に平良選手、仲嘉選手は入賞している。そして、今回の北京オリンピックの大城選手で5人目のオリンピックの誕生だ。

沖縄のお家芸ウエイトリフティング

本県のウエイトリフティングは名実ともに日本一と言っても過言ではない。国体においては1993～2007年までの15年間での成績は直近の三連覇を含め、優勝10回、準優勝2回、3位2回、5位1回である。歴代の優勝は地元開催の海邦国体を含めると11回を数え、単独1位

である。

日頃からスポットライトを浴びることの多い高校球児と比較し、必ずしも恵まれた環境にない中で練習する県内の高校生に私がかけてきた言葉は『継続した努力は必ず報われる。殊、ウエイトリフティングにおいては無駄な努力などない。その努力の結集が実力となって力を発揮できるのだ』である。そして、PDCAサイクルを意識した練習を求めてきた。PはPlanのPで、練習計画の立案を示す。DはDoのDで、計画の実行と試合でどう生かされたか。CはCheckのCで、結果を評価し、反省する。AはActionのAでこれらのことをふまえて次の行動に移すことが重要であると指導してきた。

本年の県高校総体の会場の練習場に掲げられた部訓には『努力する者は夢を語り、努力せぬ者は愚痴をこぼす』とあった。いたく感動し

た。そして、日本高校記録が4つ誕生した。

おわりに

以上、自分の趣味について書かせていただいたが、ウエイトリフティングについて少しでもご理解していただけたら有難い。

全国で医師不足が叫ばれている。ここ沖縄県でも若手呼吸器外科医は少ない。当院でもここ5、6年、呼吸器外科医をめざす研修医に指導する機会がめっきり減った。淋しいかぎりだ。

呼吸器内科、呼吸器外科をめざす研修医諸君、あなたの努力次第で必ずその実力を発揮させ、全国のトップ選手に育てます。若手呼吸器外科医を育てる日を首を長くして待っている今日この頃である。

(沖縄県ウエイトリフティング協会副会長)



知事へオリンピック出場報告 (右から2番目が筆者)



2007年秋田国体にて 団体三連覇、11回目の優勝をかざる。少年・成年選手・監督・コーチ陣 (後列中央が筆者)

原稿募集!

「いきいきグループ紹介」のコーナー (1,000字程度)

各研究会、スポーツ同好会や模合等の活動紹介などを掲載致しますので、どうぞお気軽にご紹介下さい。